

科目名	人文科学 I				担当者	学科教員			
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】									
人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「コミュニケーション入門」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】									
具体的事例を通して、コミュニケーションの実践につながる理論と、医療・福祉の現場における患者対応や指導、職場の人間関係、職種間の連携構築に必要となる人間理解の基礎を学ぶ。また、自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
「科目修了試験」(100%)で行い、60 点以上を合格とする。									
【注意事項】									
「テキスト課題」に合格(60 点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	「第 1 章 視点をかえれば人間関係が変わる」では、職場の人間関係に焦点をあわせて、自己の感情発現の仕組みとコントロールの方法について学ぶ。さらに、職場の上司や同僚の行動に対して負の感情を抱いた際に必要となる具体的な対応と技法を理解する。つづく「第 2 章 過度な期待がいらだちを生む」では、医療・福祉現場の人間関係や施術者・患者関係の中で生じる否定的な感情(怒り、苛立ち、失望、リアリティ・ショック)を生む仕組みを理解し、事例を通して、同僚を含む他者への支援を行う際に必要となる技法とポイント(傾聴、チャンクダウン、承認、共感的理解)について学ぶ。さらに、「第 3 章 相手を知ればストレスが減る」では、職場の中でストレスが生じる様々な場面を想定し、安定した人間関係の阻害要因となる恐れや不安、促進要因となる安心感やラポール・信頼関係、相互理解と協調関係の形成に重要となる視点や技法(質問やフィードバックの方法等)を学ぶ。最終章となる「第 4 章 自分の中の勇気を呼び覚ます」では、他者と良好なコミュニケーションを図るために、ソーシャルネットワークの作り方や自分自身の中で生じる様々なストレスとの向き合い方と理論を学習し、自己成長の観点から、人間関係力やコミュニケーション力を修得する意義を学ぶ。								
一般目標	自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する								
行動目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己と他者、そして相互の理解に必要となるコミュニケーションの基礎技法について説明できる。 2. 人間関係から生じる感情やストレスの仕組みと、対処に必要な技法を説明できる。 3. 安定した人間関係の形成要因とこれに必要となる視点、技法について説明できる。 4. 自己成長の観点からコミュニケーション力の重要性を説明できる。 								
教科書	医療・福祉現場のコミュニケーション (三輪書店)				参考書	テキストの巻末(第 4 章末尾)に参考図書をリストアップしているので、学習の進展に応じて参考にすること。			

科目名	人文科学Ⅱ					担当者	学科教員		
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】									
人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「カウンセリング入門」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】									
医療領域、産業領域、教育領域において支援に携わる職種に就く者が、来院者や来談者との信頼関係を築き、来院者の意思決定を引き出すことの意味を理解し、支援に携われるために必要なカウンセリングの基礎的な考え方、技法、支援に必要な基礎知識、新しいアプローチ方法を総合的に学ぶことを目標とする。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
「科目修了試験」(100%)で行い、60 点以上を合格とする。									
【注意事項】									
「テキスト課題」に合格(60 点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	第Ⅰ章 カウンセリングの基礎 1. カウンセリングとは 2. カウンセリングの基礎となる理論 第Ⅱ章 カウンセリングの基本的な姿勢と技法 1. カウンセリングの導入 2. 基本的な姿勢 3. 基本的な技法 第Ⅲ章 支援に必要な基礎知識 1. 発達段階 2. 対象喪失 3. パーソナリティ障害 4. 発達障害 第Ⅳ章 支援における新しい視点 1. コミュニティ・アプローチ 2. アタッチメント								
一般目標	様々な問題を抱えて来談する相談者を傷つけることなく、理解し、相談者の本来の力を引き出すために、カウンセラーが身につける必要のある知識・理論・技法および構えについて総合的に学び取ること。								
行動目標 到達目標	1. カウンセリングの目的について説明できる。 2. 精神分析、クライエント中心療法、論理情動行動療法の概略を説明できる。 3. カウンセリングの導入、基本的な姿勢について説明できる。 4. カウンセリングの基本的な技法を理解し、用いることが出来る。 5. 人の発達段階について説明できる。 6. 対象喪失患者の支援を説明できる。 7. パーソナリティ障害の概略を説明できる。 8. 発達障害について説明できる。 9. コミュニティ・アプローチ、アタッチメントの概念を理解できる。								
教科書	カウンセリング入門—医療職のために— 久住眞理監修、中野博子・萩原豪人・木内敬太著、2017 人間総合科学大学					参考書			

科目名	社会科学					担当者	学科教員		
単位数	2	時間数	90	年次	2	履修期	通期	授業方法	通信
【授業方法「通信」の科目の認定について】									
人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科において科目等履修生として「生活習慣と健康」の科目を履修することで、本校での履修に替え、科目修了試験採点結果の合格点をもって単位を認定する。(以下、対象科目のシラバスより抜粋)									
【授業概要(目的・ねらい)】									
健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
「科目修了試験」(100%)で行い、60 点以上を合格とする。									
【注意事項】									
「テキスト課題」に合格(60 点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。									
【講義計画】									
テキストの内容及びアドバイス	第1章 生活習慣病の特徴:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ 第2章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ 第3章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ 第4章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ 第5章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ 第6章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ 第7章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ 第8章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康障害について学ぶ 第9章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ 上記以外として、健康日本21(第二次):2013 年 4 月から 10 年計画でスタートした健康増進法を基盤とした国の施策に対しても関心を向けて下さい。								
一般目標	心身の健康を維持するために、日ごろの生活習慣が重要であることを理解し、自身の生活改善に活用する。								
行動目標 到達目標	1. 不適切な生活習慣が生活習慣病につながることを説明できる。 2. 高血圧の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 3. 糖尿病の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 4. 肥満の診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 5. メタボリックシンドロームの診断基準と生活習慣の関係を説明できる。 6. 食事バランスの重要性を説明できる。 7. 運動の意義と効果を説明できる。 8. 喫煙の影響と禁煙の効果について説明できる。 9. 適度の睡眠と健康の関係を説明できる。								
教科書	『まるごとわかる！生活習慣病』、坂根直樹、「南江堂」、2020、第1版					参考書			

科目名	運動学					担当者	後藤 力		
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
解剖学、生理学の基礎知識を確認しながら身体の動きを科学的に理解する考え方を構築する									
1, 運動学に必要な専門用語や概念の確認									
2, 解剖学・生理学の復習および運動学に重要な観点からの補足説明									
3, 歩行動作などの分析									
4, 正常発達									
【実務経験】									
整形外科での実務経験をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
中間試験 30 点、定期試験素点 70 点の合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	運動学とは						定期試験		
2	運動学に必要な専門用語と概念					20	試験のフィードバック		
3	てことその原理								
4	てこの応用と計算								
5	骨、関節								
6	神経の構造と機能								
7	運動感覚								
8	反射								
9	股関節・膝関節								
10	姿勢の基本・立位姿勢と重心								
11	重心線・立位姿勢の制御								
12	歩行の概論および歩行周期								
13	重心移動と筋電図								
14	正常歩行の評価								
15	異常歩行の特徴と疾患								
16	正常発達の概念								
17	原始反射								
18	月齢と運動発達								
19	運動学習とその概念								
教科書	運動学改訂第 3 版					参考書			

科目名	病理学概論					担当者	吉川 崇倫			
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	前期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】										
病理学では、人体の疾病に関する一般的事項および各病変の概要について理解し、これを施術に応用する能力と態度を身に着けることを目的とする。										
【実務経験】										
【成績評価方法】										
定期試験素点のみで評価する。										
【注意事項】										
【講義計画】										
1	オリエンテーション									
2	疾病の一般									
3	細胞傷害									
4	細胞傷害									
5	循環障害									
6	循環障害									
7	進行性病変と細胞・組織の適応									
8	進行性病変と細胞・組織の適応									
9	炎症									
10	炎症									
11	腫瘍									
12	腫瘍									
13	免疫異常									
14	アレルギー									
15	先天性疾患									
16	先天性疾患									
17	病因(内因、外因)									
18	運動器の病理									
19	まとめ									
	定期試験									
20	復習									
教科書						参考書				

科目名	外科学概論				担当者	吉川 崇倫			
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
<p>外科学は、外傷を専門とする柔道整復師にとって重要な学問である。広範な学習内容であるが、臨床現場で出会う様々な患者に対応する上で必要となるものが多くある。</p> <p>本講義は、柔道整復師として必要な外科学の基礎知識の習得を目的とする。</p>									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
毎回の講義内容を必ず復習するように努力してください。									
【講義計画】									
1	損傷(損傷・創傷)								
2	損傷(創傷・熱傷)								
3	炎症と外科的感染症(炎症)								
4	炎症と外科的感染症(外科的感染症)								
5	腫瘍(概念・組織形態・成因・分類・発育形式)								
6	腫瘍(良性腫瘍・悪性腫瘍・診断・治療)								
7	ショック(循環血液量減少性ショック・心原性ショック)								
8	ショック(血液分布異常性ショック・閉塞性ショック)								
9	輸血と輸液(輸血の基礎・適応・実際)								
10	輸血と輸液(輸液の基礎・目的・種類)								
11	消毒と滅菌								
12	手術								
13	麻酔								
14	移植と免疫								
15	出血と止血								
16	心肺蘇生法								
17	脳神経外科疾患(頭部外傷)								
18	脳神経外科疾患(脳血管障害)								
19	胸部・腹部外科疾患								
	定期試験								
20	総復習								
教科書	外科学概論 改訂第4版				参考書				

科目名	整形外科学					担当者	吉川 崇倫		
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
1) 運動器の基礎知識 2) 整形外科診察法 3) 整形外科検査法 4) 整形外科治療法 5) 整形外科疾患の病態・診断・治療 整形外科疾患の診断ができ、治療法の決定ができる。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	疾患別各論 感染性疾患①						定期試験		
2	疾患別各論 感染性疾患②					20	まとめ		
3	疾患別各論 骨および軟部腫瘍①								
4	疾患別各論 骨および軟部腫瘍②								
5	疾患別各論 非感染性軟部 骨関節疾患①								
6	疾患別各論 非感染性軟部 骨関節疾患②								
7	疾患別各論 全身性 骨軟部疾患①								
8	疾患別各論 全身性 骨軟部疾患②								
9	疾患別各論 骨端症 四肢循環障害①								
10	疾患別各論 骨端症 四肢循環障害②								
11	疾患別各論 神経 筋疾患①								
12	疾患別各論 神経 筋疾患②								
13	肩甲帯および上肢の疾患①								
14	肩甲帯および上肢の疾患②								
15	骨盤および股関節の疾患①								
16	骨盤および股関節の疾患②								
17	下肢の疾患								
18	下肢・体幹部の疾患								
19	まとめ								
教科書	整形外科学 改訂第 4 版					参考書			

科目名	衛生学・公衆衛生学				担当者	吉川 崇倫			
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
衛生学・公衆衛生学は、人を取り巻く自然・社会といった環境要因と健康の関連性を明らかにし、疾病予防と健康維持・増進に貢献する学問である。本講義では、環境保全と健康、疾病予防、感染症などについて概観し、人々の健康を維持・増進させるためにスポーツ・身体活動が果たす役割について学ぶ。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期評価のみで評価する。									
【注意事項】									
予習・復習を行って下さい。									
【講義計画】									
1	衛生学・公衆衛生学とは								
2	健康の概念								
3	疾病の予防								
4	感染症の予防								
5	感染症の予防 2								
6	身体活動による予防医学								
7	環境保健								
8	環境保健 2								
9	生活環境								
10	母子保健								
11	学校保健								
12	産業保健								
13	成人保健								
14	高齢者保健								
15	精神保健								
16	地域保健								
17	国際保健・衛生行政								
18	疫学								
19	まとめ								
	定期試験								
20	テスト解説								
教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版				参考書				

科目名	関係法規・職業倫理					担当者	外山 日登志			
単位数	2	時間数	40	年次	2	履修期	前期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】										
<ul style="list-style-type: none"> ・法の基礎知識、柔道整復師法、医療関係資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規を理解させる。また、資格取得後の法令順守を徹底する。 ・柔道整復師の社会的責任や倫理観を実践できるよう、具体的事例を通して身につける。 										
【実務経験】										
【成績評価方法】										
定期試験素点のみで評価する。										
【注意事項】										
【講義計画】										
1	序論・免許									
2	国家試験・業務									
3	施術所									
4	雑則・罰則									
5	指定登録機関・試験期間									
6	附則									
7	関係法規									
8	医療法									
9	社会福祉・社会保険関係法規									
10	個人情報保護法等									
11	医療従事者の職業倫理									
12	患者への説明									
13	医療従事者の守秘義務									
14	柔道整復師の社会的責任と対応									
15	患者への対応(ケーススタディ①)									
16	患者への対応(ケーススタディ②)									
17	患者への対応(ケーススタディ③)									
18	患者の個人情報保護									
19	SNS等での情報発信での注意点									
20	定期試験 まとめ									
教科書	関係法規 2025 年版					参考書				

科目名	保健体育 I					担当者	田中 健之		
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道着の着方・礼法・基本姿勢、組み方・歩き方・体さばき・受け身・打ち込み・投げの形約束稽古 ・柔道の基礎をしっかりと学び怪我をしないよう形をおこなえるようになる。 ・投げの形をおこなえるようになる。 ・怪我なく約束稽古がおこなえるようになること。 									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	柔道着の着方、礼法					22	投げの形・手技(肩車)・打ち込み・約束稽古		
2	礼法、基本姿勢、組み方					22	投げの形・手技(肩車)・打ち込み・約束稽古		
3	歩き方、体さばき・崩し・つくり・かけ					23	投げの形・腰技(浮腰)・打ち込み・約束稽古		
4	受け身(後ろ・横・前・前回り受け身)					24	投げの形・腰技(払腰)・打ち込み・約束稽古		
5	投げの形・手技(浮落)					25	投げの形・腰技(釣込腰)・打ち込み・約束稽古		
6	投げの形・手技(背負投)					26	投げの形・足技(送足払)・打ち込み・約束稽古		
7	投げの形・手技(肩車)					27	投げの形・足技(支釣込足)・打ち込み・約束稽古		
8	投げの形・腰技(浮腰)					28	投げの形・足技(内股)・打ち込み・約束稽古		
9	投げの形・腰技(払腰)					29	投げの形(手技)・打ち込み・約束稽古		
10	投げの形・腰技(釣込腰)					30	投げの形(腰技)・打ち込み・約束稽古		
11	投げの形・足技(送足払)					31	投げの形(足技)・打ち込み・約束稽古		
12	投げの形・足技(支釣込足)					32	投げの形(手技)・打ち込み・約束稽古		
13	投げの形・足技(内股)					33	投げの形(腰技)・打ち込み・約束稽古		
14	投げの形(手技)・打ち込み					34	投げの形(足技)・打ち込み・約束稽古		
15	投げの形(腰技)・打ち込み					35	総合練習(礼法・受け身・投げの形・約束稽古)		
16	投げの形(足技)・打ち込み					36	総合練習(礼法・受け身・投げの形・約束稽古)		
17	総合練習(礼法・受け身・投げの形)					37	総合練習(礼法・受け身・投げの形・約束稽古)		
18	総合練習(礼法・受け身・投げの形)					38	総合練習(礼法・受け身・投げの形・約束稽古)		
19	総合練習(礼法・受け身・投げの形)					39	総合練習(礼法・受け身・投げの形・約束稽古)		
	定期試験						定期試験		
20	約束稽古・固め技					40	乱取・固め技		
21	投げの形・手技(背負投)・打ち込み・約束稽古								
教科書	見る・学ぶ・教える イラスト柔道の形					参考書			

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ				担当者	入谷 一生			
単位数	4	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
・上肢の脱臼・軟部組織損傷・骨折の各論を学び、実技に対応できる知識を修得させる。									
【実務経験】									
【成績評価方法】									
定期試験の素点で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	鎖骨骨折(概説)				21	その他橈骨遠位端骨折			
2	〃(症状)				22	手根骨骨折(舟状骨)			
3	〃(整復・固定・後療)				23	その他手根骨骨折・中手骨骨折(概説)			
4	肩甲骨骨折				24	中手骨骨折(症状・整復)ベネット骨折			
5	上腕骨結節上骨折				25	指骨骨折・マレットフィンガー			
6	上腕骨外科頸骨折(概説・症状・転位)				26	鎖骨脱臼			
7	〃(整復・固定・後療)				27	肩関節脱臼(概説・症状)			
8	上腕骨結節下骨折(結節部・骨端線)				28	〃(整復・固定・後療)			
9	上腕骨骨幹部骨折(症状)				29	肘関節脱臼(概説・症状)			
10	〃(整復・固定・後療) 中間試験				30	〃(整復・固定・後療) 中間試験			
11	上腕骨顆上骨折(肘部機能解剖・概説・症状)				31	肘内障			
12	〃(整復・固定・後療)				32	手関節・指部の脱臼			
13	上腕骨外顆骨折				33	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷			
14	上腕骨内側上顆骨折				34	肩部のスポーツ損傷			
15	橈骨近位端骨折・肘頭骨折				35	肩部の不安定症、その他疾患			
16	橈骨骨幹部骨折・ガレアジ骨折				36	肘部の軟部組織損傷			
17	尺骨骨幹部骨折・モンテギア骨折				37	前腕部の軟部組織損傷			
18	前腕両骨骨幹部骨折				38	手指部の軟部組織損傷			
19	コーレス骨折(概説・症状)				39	復習			
	定期試験					定期試験			
20	〃(整復・後療・後遺症)				40	まとめ			
教科書									
柔道整復学・理論編改訂 7 版									
参考書									
柔道整復学・実技編改訂 2 版									

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ				担当者	入谷 一生			
単位数	4	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
<p>国家試験取得に必要な学力を磨くと共に、臨床での応用技術や知識を習得する。</p> <p>また、柔道整復師の適応であるか否かの判断能力を身につけていくことも目標としたい。</p>									
【実務経験】									
本校付属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	骨盤部の損傷				21	十字靭帯損傷			
2	骨盤部の損傷				22	側副靭帯損傷			
3	股関節 解剖と機能				23	発育期の膝関節障害			
4	股関節部の損傷				24	腸脛靭帯炎、鵞足炎、膝蓋骨軟化症、タナ障害			
5	大腿骨近位端部骨折、大腿骨頸部骨折				25	膝部神経障害、鑑別疾患			
6	大腿骨頸部骨折				26	下腿部 解剖と機能			
7	転子部、大転子、小転子、転子下骨折				27	下腿骨骨幹部骨折、腓骨骨幹部単独骨折			
8	股関節脱臼				28	下腿骨果上骨折、下腿骨疲労骨折			
9	股関節脱臼				29	アキレス腱炎・周囲炎、アキレス腱断裂			
10	股関節の軟部組織損傷				30	コンパートメント症候群			
11	股関節の軟部組織損傷				31	足関節 解剖と機能			
12	大腿骨骨幹部骨折				32	果部骨折			
13	大腿部軟部組織損傷				33	距骨・踵骨骨折			
14	膝関節 機能と解剖				34	足関節捻挫			
15	大腿骨遠位端部骨折				35	足関節捻挫			
16	大腿骨遠位端部骨折、膝関節脱臼				36	足関節捻挫の類症鑑別			
17	膝蓋骨骨折				37	足・足趾、舟状骨、立方骨、楔状骨骨折			
18	膝蓋骨脱臼				38	中足骨・足趾部 骨折、脱臼、軟部組織損傷			
19	まとめ				39	総復習			
	定期試験					定期試験			
20	試験フィードバック、半月板損傷				40	試験フィードバックおよびまとめ			
教科書	柔道整復学・理論編改訂7版				参考書	柔道整復学・実技編改定 2 版			

科目名	応用柔道整復実技 I				担当者	山田 修平			
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
<ul style="list-style-type: none"> ・骨折、脱臼の評価から整復までを合併症等を確認しながら実施できるようになることを目的とする。 ・軟部組織損傷の評価から処置までを理解し、実施できるようになることを目的とする。 									
【実務経験】									
本校附属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
各個人が技術を習得できるよう講義内確認テストを行い、その合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	頸部の診察				22	肘関節脱臼(整復法) 確認テスト			
2	頸部(徒手検査法)				23	肘内障(整復法) 確認テスト			
3	肩関節部の診察				24	手関節部の診察			
4	肩関節部(徒手検査法)				25	手関節部(徒手検査法)			
5	肩関節部(徒手検査法)				25	コーレス骨折(整復法)			
6	肩関節部(徒手検査法) 確認テスト				26	中手骨頸部骨折(整復法)			
7	肩関節部(徒手検査法) 確認テスト				27	コーレス骨折(整復法) 確認テスト			
8	肩鎖関節脱臼(整復法)				28	コーレス骨折(整復法) 確認テスト			
9	鎖骨骨折(整復法)				29	大腿部挫傷・肉離れ(検査法)			
10	鎖骨骨折(整復法)				30	膝関節部の診察			
11	肩関節脱臼(整復法)				31	膝関節部の損傷(徒手検査法)			
12	肩関節脱臼(整復法)				32	膝関節部の損傷(徒手検査法)			
13	鎖骨骨折(整復法) 確認テスト				33	膝関節部の損傷(徒手検査法)			
14	鎖骨骨折(整復法) 確認テスト				34	膝関節部の損傷(徒手検査法) 確認テスト			
15	肩鎖関節脱臼(整復法) 確認テスト				35	膝蓋骨脱臼(整復法)			
16	肩関節脱臼(整復法) 確認テスト				36	足関節部の損傷			
17	肩関節脱臼(整復法) 確認テスト				37	足関節部の損傷(徒手検査法)			
18	肘関節部の診察				38	足関節部の損傷(徒手検査法) 確認テスト			
19	肘関節部(徒手検査法)				39	復習			
20	肘関節脱臼(整復法)				40	復習			
21	肘内障(整復法)								
教科書	柔道整復学・理論編改訂7版				参考書	柔道整復学・実技編改定 2 版			

科目名	応用柔道整復実技Ⅱ				担当者	入谷 一生			
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
固定具の作成および固定する能力を培うことを目的とする。									
・固定の原則や応用を理解し、実践できる能力を培う。									
・最適な固定材料を選定・使用できる能力を培う。									
【実務経験による特色】									
本校附属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
各個人が技術を習得できるよう講義内確認テストを行い、その合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	キャスト固定 L字固定				21	鎖骨骨折固定			
2	L字固定				22	肩鎖関節上方脱臼			
3	U字固定:上肢				23	肩関節前方脱臼			
4	U字固定:下肢				24	確認テスト			
5	手部の固定				25	肘関節後方脱臼			
6	手部の固定				26	第5中手骨頸部骨折			
7	足関節の固定				27	手第2指 PIP 関節背側脱臼			
8	足関節の固定				28	上腕骨骨幹部骨折			
9	熱可塑性素材での固定				29	確認テスト			
10	熱可塑性素材での固定				30	肋骨骨折			
11	参加型臨床実習ガイダンス				31	足関節外側靭帯損傷(テーピング)			
12	医療面接				32	膝関節内側側副靭帯損傷			
13	医療面接 確認テスト				33	足関節外側靭帯損傷(副子固定)			
14	体表観察(触診)				34	確認テスト			
15	体表観察(身体測定、ROM)				35	アキレス腱断裂			
16	医療面接 確認テスト				36	下腿骨骨幹部骨折			
17	体表観察(触診)				37	コーレス骨折			
18	体表観察(身体測定、ROM)				38	確認テスト			
19	確認テスト				39	確認テスト			
20	復習				40	復習			
教科書									
柔道整復学・実技編改訂2版					参考書				

科目名	応用柔道整復実技Ⅲ					担当者	河原 一仁		
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】 ・柔道整復師として必要な競技者の外傷予防の知識・技術を修得する。									
【実務経験】 本校付属接骨院での実務経験等をもとに、実体験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】 定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】 白衣・白衣用の靴を着用すること。									
【講義計画】									
1	運動が生体に与える影響				21	外傷予防に必要なトレーニング①			
2	運動とエネルギー代謝・骨・筋肉				22	外傷予防に必要なトレーニング②			
3	運動と呼吸・循環				23	外傷予防に必要なトレーニング③			
4	運動とホルモン、競技者の運動生理学的特徴				24	外傷予防に必要なトレーニング④			
5	競技者の外傷予防 概論				25	外傷予防に必要なトレーニング⑤			
6	メディカルチェック				26	外傷予防に必要なトレーニング⑥			
7	アスレティックリハビリテーション(総論)				27	外傷予防に必要なトレーニング⑦			
8	ストレッチ				28	外傷予防に必要なトレーニング⑧			
9	ストレッチ				29	外傷予防に必要なトレーニング⑨			
10	ストレッチ				30	外傷予防に必要なトレーニング⑩			
11	キネシオテーピング				31	外傷予防に必要なトレーニング⑪			
12	肩関節の外傷予防				32	外傷予防に必要なトレーニング⑫			
13	肩関節の外傷予防				33	外傷予防に必要なトレーニング⑬			
14	体幹の外傷予防				34	外傷予防に必要なトレーニング⑭			
15	体幹の外傷予防				35	外傷予防に必要なトレーニング⑮			
16	膝関節の外傷予防				36	成長期と高齢者の外傷予防			
17	膝関節の外傷予防				37	成長期と高齢者の外傷予防			
18	足関節の外傷予防				38	復習			
19	足関節の外傷予防				39	まとめ			
	定期試験					定期試験			
20	前期まとめ				40	まとめ			
教科書	競技者の外傷予防					参考書			

